

# 技術士 2次試験に合格して



**木下 豪**

(きのした すぐる)

## 勤務先

国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所

〒062-8602 北海道札幌市豊平区平岸1条3-1-34

TEL 011-590-4041 FAX 011-590-4048

E-mail kinoshita-s2ym@ceri.go.jp

■ 専門：総合技術監理部門(建設)、建設部門(施工計画)、機械部門(制御)

## 1. 自己紹介

国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所で技術開発調整監をしております木下と申します。令和3年6月までは北海道開発局勤務で、その実務経験に基づいて技術士資格取得を目指しておりました。

「技術士」という言葉に初めて触れたのは、高校生の時で、父からいろいろな資格が掲載されている本を見せられた時だったと記憶しています。当時は、博士のほかにもそんな資格もあるのか位の認識で、まさか将来自分が取得するとは思いませんでした(実はその本には国家公務員試験の記述もあり、私の人生に大いに影響することになりました。)

## 2. 技術士試験について

北海道開発局では、技術資格を取ることが推奨されていますが、平成25年に道路事務所副所長になり、幅広く部下を指導する立場になったこともあって、まずは1級土木施工管理技士から受験、幸い1回で合格でき、部下指導もしやすくなりました。(実務経験ネタが5年以上前の道路事務所課長時代のもので過去資料等記憶の糸を手繰るのが大変でした。)

さて、1級土木施工管理技士の勉強を進めるにあたり、技術士も視野に入れて過去問を紐解くと、建設部門の1次試験や、選択科目の施工計画がとても親和性が高いことに気づき、勢いで1次試験を受験、これも無事1回で合格したまでは良かったのですが、そこから先はやはり一筋縄ではいきませんでした。

平成26年、施工計画で2次試験を受験。筆記試験は無事合格、口頭試験で落ちることはまずなかろうと、意気揚々と渋谷に向かったのですが、厳しい応答となり、結果は撃沈。ダメージが大きく、どうやって北海道に帰ったのかあまり記憶がない有様でした。

「受かるまで受ければ受かる」を信条に、翌年再受

験。前年度の反省を踏まえて、業務詳細の記述については、かなり内容を吟味しました(ちょうど橋梁の上部工施工でCIM活用の事例を経験することができたことも幸いでした。)。結果、筆記試験に再度合格、満を持しての口頭試験は、前年に比べ、なんとも穏やかな応答となり、無事合格しました。

翌年、間をあげずに総合技術監理部門を受験、こちらも無事合格(これもちょうどトンネル施工でトレードオフ事例を経験できたことと、筆記試験内容が、i-Constructionネタで対応できたことが大きかった。)。改めて業務詳細の仕込みが重要と認識、普段の業務の中で、こういったことに着目すべきかが、部下指導の必須項目となりました。

実は、小職は機械職として北海道開発局に採用されたのですが、職務経歴としては、道路部門の土木職と半々でして、資格取得は土木系が先行しました。

ですが、i-ConstructionやDXの施策展開等を踏まえると、土木系機械職として、機械部門(機構ダイナミクス・制御)追加取得がベストと判断、試験制度変更の話もあり、平成30年から受験することとしました。建設部門と比べると、機械部門は選択科目の選定や筆記試験対策が難しい(普段の業務と親和性が高くない部分があり、学生時代の機械学科の再勉強や、機械メーカーの最新技術動向チェックが必須。)と感じつつ、今度は口頭試験を三度経験してようやく合格しました(試験官のかなりマニアックな質問や、コンピテンシー関連のアジャストに手間取りました。)

## 3. 今後について

試験勉強を通じて、普段の業務履行における多面的な思索やそれを可能とする幅広い自己研鑽の重要性を再認識することとなり、部門をまたぐ技術士として、部下指導を含め、今後の取組に活かしていきたいと思います。